風流のはじめ館

2024
第23号
7月号

https：//s - furyu.jp/

Ⅱ期 テーマ展「46歳、旅する芭蕉さん」開催中です。

【開催期間】4月26日(金)～9月29日(日)　－入館無料－

Ⅱ期では、芭蕉にとっての「山、川、陸、海」が織りなす自然の美しさを豊かに表現した46歳の芭蕉さんの世界を紹介しています。

「松島」　米倉兌〈伊達市梁川美術館蔵〉

260余りの島々からなる松島は、芭蕉にとって心ひかれる場所でした。

松島は笑ふが如く、象潟はうらむがごとし。

「写真提供：宮城県観光プロモーション推進室」

「写真提供：秋田県観光連盟」

松島は笑うようで、象潟は憂い悲しむようである。美女の屈託ない笑顔と、同じ人が見せる傷心の面持ちを、松島と象潟を人に見立てている。

五月雨をあつめて早し最上川

「写真提供：公益社団法人山形県観光物産協会秋田県観光連盟」

おくのほそ道の旅は、春に江戸深川から隅田川をさかのぼるところから始まります。そして、秋に美濃国大垣でこの旅をむすび、舟にのり、川を下って伊勢に向かいます。川で始まり、川で終わり、ともに別れの句を詠んでいます。

芭蕉にとって、川は時間の比喩であり、その川に浮かぶ舟は、人の一生になぞらえているようです。

「舟を待つ」
米倉兌〈伊達市梁川美術館蔵〉

「福島を旅した芭蕉さんのこと」開催しました。

『おくのほそ道』には登場しない『曾良随行日記』に記された行程を含めた足跡を辿り、芭蕉が訪れた土地の歴史や歌枕の解説を聞きながら、『おくのほそ道』を楽しみました。

バスツアー行程

- 乙字ヶ滝
- 守山田村神社
- 安積山公園
- 安達ケ原ふるさと村
- 黒塚観世寺
- 高林寺

芭蕉や数多の旅人たちが行き来した街道にしみ込んだ悲喜こもごもの歴史や物語に思いを馳せました

予習講座

当館職員より、事前学習を行いました。

旧道を走ると、昔のままの姿でそっと佇む風景がまだあるような気がします

乙字ヶ滝

守山史談会会長の佐藤新一さんに、解説いただきました。

守山田村神社

田村神社の須賀川の市原家の献燈

すかがわ昔話の会の安田きよ子さんの、怖くも哀しい鬼婆の昔話。

黒塚「観世寺」

色とりどりの
高林寺の紫陽花

「すかがわ大人塾」開催しました。

6/8(土) 第2回 花を知る　草を知る

翠ヶ丘公園に自生する草花、樹木（定家葛、忍冬、和紙の原料になるこうぞの木、アカネ、ゲンノショウコ、ヤブレガサ、ヒヨドリジョウゴなど）の性質、虫、万葉歌碑にも触れながら、自然の営みを学びました。
翠ヶ丘公園や、福島県に自生する外来生物が及ぼす影響、対策などの話、次世代のため生物多様性に関する情報や収集の大切さの話も織り交ぜながらの講座でした。

講師　安藤勇司先生
（日本自然保護協会会員、自然観察の会ふくしま会員）

7/5(金) 12(金) 第3回 やさしい はじめての俳句教室

今年も開催した「俳句教室」。
一日目は、音数の数え方、季語、写生など俳句の基礎についての講義のあと、花瓶に生けた紫陽花で一句つくり、風流のはじめ館の庭木や花で一句。俳句づくりは初めての方ばかりでしたが、皆さんさらっと、それぞれの17文字の言葉で作句をしました。

あじさいや部屋の片隅色どりて
ゆびふれて葉から落ちゆく梅雨のつぶ

講師　佐藤秀治先生
（桔槿吟社同人）

言の葉

花浅葱（はなあさぎ）

花色がかった露草の青い花汁を用いて摺染したことに由来する。

紺碧（こんぺき）

真夏の日差しの強い青空のような深い青緑色。「紺碧の空」「紺碧の海」のように濃く美しい青の表現に使われる。

空色

晴れた空の色のような、明るい青色。「空天色」「碧天」とも。紫色の淡青色を「空色」、緑味の淡青色を「水色」と呼んでいる。

炎ゆ（も）

ぎらぎらと輝く太陽の強い日差し。

油照（あぶらでり）

薄曇りで風がなく、汗がにじむような、じっとりした蒸し暑さ。

展示品の紹介

「野越え」太田良平作
木彫（樟）一九七三年
伊達市梁川美術館蔵

太田良平（おおたりょうへい）　一九一三―一九九七

穏やかな写実的女性像に季節感や抽象的な概念を託した作品を多く制作した。
芭蕉像の作品は多く、飯坂温泉や桑折町に建つ芭蕉像も太田の作品である。

お知らせ

2(金) 3(土)
「夏休みこども俳句教室」

27(火)
須賀川市俳句ポスト第一回投句〆切

8/22(木)～9/29(日)
「46歳、旅する芭蕉さん」III期

企画展情報やイベント情報は当館公式HPをご覧ください。

文化振興課 公式 Instagram

風流のはじめ館かわら版　第23号　編集・発行／須賀川市風流のはじめ館　〒962―0832　福島県須賀川市本町81番地4　電話0248(72)1212